

五月例会 御案内

〔令和元年・通算第六九六回〕

公益財団法人 協和協会

○ 御案内

五月三十日(木)十一時半入館可、正午～午後二時半 参議院議員会館地下一階B105会議室
講題 アメリカ・トランプ大統領の行方、日本の戦略！
講師 渡部恒雄先生(笹川平和財団上席研究員、ワシントンDCのCSIS元上級研究員)
当協会では、今年に入り、習近平の中国、金正恩の北朝鮮、文在寅の韓国と、御専門家の解説を承りましたが、ここで、やはりアメリカのトランプ大統領の動きが気になります。日本では特に、トランプ大統領について、低い評価が多いようですが、世界の指導者クラスを相手に極めてしたたかな外交・取引、経済政策・貿易交渉を展開している様相があり、あるいは傑出した指導者のようにも見えます。そこで、ワシントンDCのCSIS(戦略国際問題研究所上級研究員)をも務め、アメリカ事情に詳しい渡部恒雄先生に、御講話御解説をいただくことにしました。
貴重なお話がうかがえると存じます。奮っての御参加、お待ち申し上げます。(清原記)

□ 当日会費(昼食付き) 会員は三千元、非会員五千元。

公益財団法人 協和協会 <http://www.kyowakyoikai.or.jp>

五月二十日(木)の月例会に

出席 欠席 (いずれかに○印を) 電話 03-3581-1192
FAX 03-3507-8587

御芳名

貴方様のFAX
メール

当日連絡先 080-8836-6203 重田
080-9292-2620 高津
(メール不可・通話のみ)

五月二十八日(火)までに欠の御連絡賜りたく。

○ 御報告

ハノイにおける米朝首脳会談が不成功となり、帰国後の金正恩は核開発とミサイル施設再建へ動いています。また韓国の文在寅は戦時中の徴用工に対する賠償を日本企業に執行する反日政策を強行しつつあり、東アジア情勢は混沌と危険に傾いております。

そうした折なので、さる四月十七日(水)の月例講話会は、「韓国、北朝鮮どうなる、混沌する東アジア情勢」と題して、重村智計先生(朝鮮半島問題研究の専門家、早稲田大学名誉教授、現東京通信大学教授)に御講話をいただきました。

その要点を記しますと、まず、北朝鮮の実力として、GDPは韓国の3分の1程度の約一兆円、国家予算は韓国の百分の1程度で約八〇億円、石油輸入量はわずか七〇万トン程度なので、戦争できる状態にない。米朝第二回目の首脳会談がなぜ決裂したのか？は、トランプの主張が、①核兵器や化学兵器の廃棄、②核施設工場の破壊、③核査察の受入れ、④核科学者の追放、であり、そのすべてが行われた後に制裁解除する、というものであったが、実務者会議で、これら条件が、金正恩には伝えられていなかったようで、トランプからこの条件を突きつけられて、金正恩は何も言えなくなり、トランプへ「時間をくれ」といい、トランプも多少の猶予を与えたようである。そこで、その後の金正恩の言動をみると、秋までに、朝中首脳会談、朝口首脳会談、そして、南北首脳会談を考えており、また、それまでにトランプとの間で制裁解除の空気を作ろうとしているように見える。また、金正恩は、「核兵器の廃棄」に猛反対している軍勢力を抑えるべく、これまでの軍主導から党主導へと移行することに全力を挙げようとしているように思われる等々の御解説があった。なお、米韓関係は、四月十一日の米韓首脳会談は僅か数分間であり、そこから、トランプは、文在寅を「北朝鮮の手先」と考えて見捨てており、経済状況も悪く、末期的状態にある等々解説され、重村先生のすばらしい分析力に、一同感銘いたしました。(清原記)

▽「公益財団法人 協和協会」とは

昭和四十九年、岸信介元総理によって創立された財団。活動趣旨は、「政党・派閥・利害・打算の次元を超えて、真に国家的課題を研究調査し、特に重要課題は、政府宛要請書を作って、時の政府へ提出する」ことにある。昭和五十四年から本格活動に入り、月例講話会の他に八つの部会と、五、六の委員会があり、これまでに百三十七本の要請書を時の政府に提出している。第二代会長は福田赳夫元総理、第三代会長は櫻内義雄元衆議院議長、第四代会長は塩川正十郎元財務大臣、第五代会長代行として、江口一雄元衆議院議員、現在、第六代は代表理事兼会長代行として、岸信夫衆議院議員・安全保障委員長、元外務副大臣が就任している。

▽事務局電話(03) 3581-1192 代表理事兼専務理事・清原淳平、総務 重田、高津